

八事山・歳・時・記

新年初祈禱会

「一日の計は朝にあり」

「二年の計は元旦にあり」

過ぎし一年間の感謝とともに、新しい年を迎えて、初詣のお詣りを行い、一年の平穏無事を願うだけでも心がすがすがしい気持ちになります。

新しい年を迎えて、その年一年間の諸々の願いの祈願を行っています。大難が小難に、小難が無難になるように無い招福が小さな招福へ、小さな招福が大きな招福になるように行うのが新年初祈禱会です。

興正寺では、本堂で元旦から四日まで一年最初の、功德あらたかな護摩の火を焚きあげお札の加持を行い、お札を授与いたします。

家族揃ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

新年初祈禱会は、元旦のみ午前零時より以降は、午前十時、午前十一時、午後一時、午後二時、午後三時の一日五座行います。

【家内安全】 【交通安全】

【良縁成就】 【学業成就】
【合格祈願】 【入学祈願】
【入園祈願】 【商売繁昌】
【病気平癒】 【無病良薬】
等々です。

我々の新年は、一月一日(元旦)ですが、暦の始まりは、二月四日の立春からです。「厄払い」は、二月三日に行われた方が、良いと思います。



-3101号-

星祭開運祈禱会

「人の命みは、生まれながらに定まる自身の星と毎年巡りくる星のもとにある」と考えられています。生まれた年の干支により七つの星で成り立つ北斗七星のいずれかに自身の星は定められ一生変わらないとされています。

毎年変わりゆく星と自身の生まれ持った星の巡り合わせでその年の吉凶が決まります。そのため、星回りの悪い年は悪事災難から免れるように、星回りの善い年はより善い一年となるように真言宗の秘法を持つて星を供養し御札に仏様を宿し、除災招福を祈願する法会を厳修します。



節分厄除祈禱会

節分とは本来、「季節を分ける」つまり「季節の変わり目」を指します。二月四日の立春は冬から春に変わり、一年の始まりとして一番尊ばれています。昔は季節の変わり目に邪気が入りやすいと考えられており、その中でも重要なのが「年の変わり目」でした。

古代中国では、旧年の厄や災難を祓い清める「追儺」という邪氣払いの行事が行われてきました。これが奈良時代に日本に伝わり、日本で行っていた邪氣を払うために春夏秋冬の節分に行われていた「豆打ち」という行事が合わざり、今の「豆まき」となりました。豆を撒くことによって魔を追い払い、一年の無病息災を祈願する法会を厳修します。

新年初護摩祈禱会

一年の計は元旦にあります。過ぎし一年への感謝とともに、新たな年への願いを込めて皆様の願いを護摩・読経で祈願いたします。商売繁昌・身体健全・家内安全など、お一人お一人の願いを御願願ください。

◆ 祈禱料 (御札あり) 5,000円／1万円／2万円
◆ 申込 ① 納経所にて事前申し込み
② 初詣当日に申し込み

■ 2019年1月5日(土) 10時半～西山本堂にて

大般若經転讀祈禱会

大般若經とは、全六百巻におよぶありがたい經典です。「般若」という特別な読み方にて、魔とケガレを吹き払う「梵風」を起こし皆様の願いが御仏に届くよう、僧侶は声が枯れるまでできる限りの力を振り絞り祈願いたします。

◆ 祈禱料 1,000円

■ 2019年1月13日(日) 14時～西山本堂にて

成道会

セーナー一族の長者の娘スジャータは一杯の乳粥を差し出してお釈迦様が悟りを開いたとされる旧暦十一月八日、菩提樹の下でお釈迦様の成道(覚りを開くこと)を記念した法会を厳修いたします。

■ 2019年1月21日(月) 10時30分～弘法堂にて
初弘法～お授戒～

新年初めての21日(お大師様のご縁日)は初弘法といい、「お授戒」の儀式が執行されます。お授戒とは、仏の示された戒を直接授かり法話を頂く儀式です。戒には現代の人々にこそ思い出して頂きたい「仏の心の在り方」が説かれています。

◆ 祈禱料 無料 (菩薩戒牒授与)
◆ 申込 先着順 (50名限定)

行事のご案内

■ 2019年1月1日(火・祝)～1月4日(金)
西山本堂にて

『八事山文庫』季刊化と刷新のお知らせ

次号より「八事山文庫」は季刊(年4回発刊)に移行・刷新致します。
有縁の皆さまへ當山の四季折々を万遍なくお伝えするため、供養・祈福の要となる、節分星祭・春彼岸・盆・秋彼岸のご案内に併せ情報をまとめ発行致します。

今後とも、変わらぬご協力をお願い致します。
「八事山文庫」は興正寺創建以来、歴代住職により書き留められてきた書物などの総称に由来します。330年余りの長きにわたり八事の地にあることは、ひとえに皆さまのご協力があってのことだと深く御礼申し上げます。

海辺老松



海辺老松



表装製部分

寺宝通心

— 第34回 —

松は冬でも青々とした葉を付けることから、古くから不老長寿の象徴とされてきました。同じく冬でも青い竹、冬に花を咲かせる梅と合わせて中国では「歲寒三友」、日本では「松竹梅」と呼ばれおめでたい樹とされています。また、魔除けや神が降りてくる樹としても珍重され、正月に家の門に飾る門松には神を出迎えるという意味があります。

慶事に用いられる松は若い松だけではなく、長い年月を経た松も含まれます。老松（おいまつ／ろうしょう）は一般に樹齢が永いものをいますが、正確に何年以上という規定があるわけではなく、「古木だな」と感じられたものがそう呼ばれます。有名な松の中には、三百年、五百年、八百年とも言われるものがあります。老松の中には、もしかしたら枝折れ、傷ついているものがあるかもしれません、かえってそこに確かな生命力を感じ、万事耐え忍び受け流してきました強さを尊び、人や組織の未永い繁栄

を願う象徴とされてきました。

この作品は海辺という厳しい環境下にあってなお風月に耐え、枝を伸ばしている松が描かれています。岸壁に押し寄せる満巻く潮に手をのばすように伸びる枝には、枯れ行く命ではなく伸びやかさを感じられます。生きてきた軌跡が姿にあらわれる。自然から学ぶことは多いと言いますが、人

もそのような逞しさ、伸びやかさがあると魅力が増すのではないか。

さて、この作品の見どころは絵だけではありません。表装製の図柄にも作品の意図が見ていくと、「ねずみ、うし、とり、うさぎ……」と干支が織り出されています。老松の重ねた年月を干支を織り出した裂を用いることで表す。絵だけで完成するのではなく、軸に仕立てる人とも呼吸が合っていること、この作品はより味わい深いものとなっています。

（川村）

明けましておめでとうございます。
そう、緊張がほぐれた様子が伺えます。

家族揃ってお寺に初詣。新年の室礼の茶室で一服。新春ならではの光景にはほんましい気持ちにさせて頂きました。

竹翠亭では、お正月やお茶会のときだけ

いません」と挨拶してくれました。両隣のお父さんお母さんは、その様子を笑顔でご覧になり、お祖父さんお祖母さんも目を細めていらっしゃいます。

そして皆が男の子が、苦い抹茶を飲めるのかと見守ります。初めて茶室を訪れ、初めての抹茶のようです。

「熱いよ、気をつけて、こぼさないでよ」

回りの心配や応援を受けながら、小さな手で茶碗をしつかり持つて、口に運びます。まずは、ひと口。飲めました。

その後、飲み干して「おいしかった」と男の子。「ああ、飲めたね」と大人達に褒められ、男の子は少し照れながらも嬉し

いと笑顔で、お待ちしております。

（竹翠）



竹翠亭のお正月

日本のお正月の清々しさ、美しさに出会えます。迎春菓「花ひらむち」と金粉入りお抹茶でお年始を。

初詣のお帰りに茶室竹翠亭にお立ち寄りください。



節分福豆茶席

節分だけに行う特別煎茶席です。

日時 1月3日(日)10時~/11時~/12時~/13時~/14時半~/11時半~/1時~/2時~/3時~/4時~/5時~/6時~/7時~/8時~/9時~/10時~/11時~/12時~/13時~/14時~/15時~/16時~/17時~/18時~/19時~/20時~/21時~/22時~/23時~/24時~/25時~/26時~/27時~/28時~/29時~/30時~/31時~/32時~/33時~/34時~/35時~/36時~/37時~/38時~/39時~/40時~/41時~/42時~/43時~/44時~/45時~/46時~/47時~/48時~/49時~/50時~/51時~/52時~/53時~/54時~/55時~/56時~/57時~/58時~/59時~/60時~/61時~/62時~/63時~/64時~/65時~/66時~/67時~/68時~/69時~/70時~/71時~/72時~/73時~/74時~/75時~/76時~/77時~/78時~/79時~/80時~/81時~/82時~/83時~/84時~/85時~/86時~/87時~/88時~/89時~/90時~/91時~/92時~/93時~/94時~/95時~/96時~/97時~/98時~/99時~/100時~/101時~/102時~/103時~/104時~/105時~/106時~/107時~/108時~/109時~/110時~/111時~/112時~/113時~/114時~/115時~/116時~/117時~/118時~/119時~/120時~/121時~/122時~/123時~/124時~/125時~/126時~/127時~/128時~/129時~/130時~/131時~/132時~/133時~/134時~/135時~/136時~/137時~/138時~/139時~/140時~/141時~/142時~/143時~/144時~/145時~/146時~/147時~/148時~/149時~/150時~/151時~/152時~/153時~/154時~/155時~/156時~/157時~/158時~/159時~/160時~/161時~/162時~/163時~/164時~/165時~/166時~/167時~/168時~/169時~/170時~/171時~/172時~/173時~/174時~/175時~/176時~/177時~/178時~/179時~/180時~/181時~/182時~/183時~/184時~/185時~/186時~/187時~/188時~/189時~/190時~/191時~/192時~/193時~/194時~/195時~/196時~/197時~/198時~/199時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/282時~/283時~/284時~/285時~/286時~/287時~/288時~/289時~/290時~/291時~/292時~/293時~/294時~/295時~/296時~/297時~/298時~/299時~/200時~/201時~/202時~/203時~/204時~/205時~/206時~/207時~/208時~/209時~/210時~/211時~/212時~/213時~/214時~/215時~/216時~/217時~/218時~/219時~/220時~/221時~/222時~/223時~/224時~/225時~/226時~/227時~/228時~/229時~/230時~/231時~/232時~/233時~/234時~/235時~/236時~/237時~/238時~/239時~/240時~/241時~/242時~/243時~/244時~/245時~/246時~/247時~/248時~/249時~/250時~/251時~/252時~/253時~/254時~/255時~/256時~/257時~/258時~/259時~/260時~/261時~/262時~/263時~/264時~/265時~/266時~/267時~/268時~/269時~/270時~/271時~/272時~/273時~/274時~/275時~/276時~/277時~/278時~/279時~/280時~/281時~/

2019年 八事山 興正寺 年間行事予定

◆ 五日	大隨求明王	◆ 十八日	觀世音菩薩 (觀音堂)
◆ 八日	大日如來 (大日堂)	◆ 二十一日	弘法大師 (弘法堂) □
◆ 十三日	虛空藏菩薩 (能清堂) □	◆ 二十四日	地藏菩薩 (能清堂)
◆ 十五日	阿彌陀如來 (東山本堂)	◆ 二十八日	不動明王 (不動護摩堂)

七月	五月	四月	三月			二月	一月	
十三日～十五日 七月盆			十八日～二十四日 春季被序会			十四日	五日	一日
十七日	十五日	十二日	五日	二十五日	二十四日	十七日	十三日	四日
◎青葉まつり (旧暦六月十五日)	精靈送り	◎花まつり (旧暦四月八日)	大般若經転読祈祷会	◎御正當 (旧暦三月二十一日)	永代祠堂法会	人形仏具供養会 興正寺施主慰靈法会 動物慰靈法会	節分厄除祈祷会 星祭御札祈祷会	大般若經転読祈祷会 初護摩祈祷会 ◎成道会 (旧暦十二月八日)

④マークの法会では、特別朱印帳をかこざいます。

十二月	十月	九月		八月				四日
三十一日	一日～五日	二日	三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十日～十六日 八月会
除夜の鐘	三千仏供奉会(懺悔会)	◎千燈供奉会 稚児行列	人形仏具供奉会 興正寺施主懺悔法会	特別永代祠堂法会	大般若經転読祈禱会	大施餓鬼法会	初盆合同供奉会	盆合同供奉会
			二十日～二十六日 秋季戒房会	五日	十六日	十五日	十一日	十日

2019年
年忌早見表

1周忌	平成30年逝去
3回忌	平成29年逝去
7回忌	平成25年逝去
13回忌	平成19年逝去

33回	27回	23回	17回
昭和62年過去	平成5年過去	平成9年過去	平成15年過去

100回
50回

2019年己亥歲 年齡是日春（數之年）

九曜日	土曜日	木曜日	金曜日	日曜日	火曜日	水曜日	月曜日	木曜日
吉凶	大吉	半吉	末吉	半吉	大吉	大凶	大凶	大吉
九星	六白土星	九紫火星	一白水星	二黑土星	三碧木星	四绿木星	五黄土星	六白金属
	平31 2019	平30 2018	平29 2017	平28 2016	平27 2015	平26 2014	平25 2013	平24 2012
1 いのしし	2 いぬ	3 とり	4 さる	5 ひつじ	6 うま	7 へび	8 たつ	9 うさぎ
10 とら	11 うし	12 ねずみ	13 いのしし	14 いぬ	15 とり	16 さる	17 ひつじ	18 うま
19 へび	20 たつ	21 うさぎ	22 とら	23 うし	24 ねずみ	25 いのしし	26 いぬ	27 とり
28 さる	29 ひつじ	30 うま	31 へび	32 とつ	33 うさぎ	34 とら	35 うし	36 ねずみ
37 いのしし	38 いぬ	39 とり	40 さる	41 ひつじ	42 うま	43 へび	44 たつ	45 うさぎ
46 とら	47 うし	48 ねずみ	49 いのしし	50 いぬ	51 とり	52 さる	53 ひつじ	54 うま
55 へび	56 たつ	57 うさぎ	58 とら	59 うし	60 ねずみ	61 いのしし	62 いぬ	63 とり
64 さる	65 ひつじ	66 うま	67 へび	68 たつ	69 うさぎ	70 とら	71 うし	72 ねずみ
73 いのしし	74 いぬ	75 とり	76 さる	77 ひつじ	78 うま	79 へび	80 たつ	81 うさぎ
82 とら	83 うし	84 ねずみ	85 いのしし	86 いぬ	87 とり	88 さる	89 ひつじ	90 うま
91 へび	92 たつ	93 うさぎ	94 とら	95 うし	96 ねずみ	97 いのしし	98 いぬ	99 とり

厄年

厄年とは
一年のうち何らかの厄難に遭遇する恐れの多い年齢をいいます。
厄除けをするにあたり、「一年の厄事を願ひ御前に身代わりにさ
いただき、その災を少しでも小さくすることができます。
厄除けでは厄を身代わりにして身を守ります。

七
被服と

「佛法は中庸と稱す」とこの時期は昼夜を等分で長短無
き。朝に中庸の時で、仏事を行うのに忙い事務
ある。」
心に忍耐「仏にせる難」があり、實際の歸れは間違ひ
れていた人の方へ、あれで少る仏心を思ひ起こす願ひ
です。

施城鬼之

赤軍尼ニ尼私ニ折拂をすすめし事
特に注意：大凶・体力低下を起こした
時ニニ・本厄の前年で、注意が必要

104

貴を施す香根効能を以て供養す。

星祭とは
人は生れたるした由らの星に陣うりがあると。毎年
2月3日にその星の厄を取り除く厄除開運・安
等を願い、御免免除星祭を修す。
この日までに身に附いた厄を手書きし、世間が運
を替へ、精神・精神を作りこなす。奉事も込った大方
御免免除は2月3日が主となるからです。

盆供養とは
丁度四月一日は田、五月四日一日は田、六月三日は田、
先を種蒔の滅暁と得勝の為に祭する。
おもな祭事有るにナス（キ）・キウリ（尾）、種蒔の為の夏祭り等、
身で心を清めし、この時期に備え付けるが、先祖供養の事である。丁度五
月五日は御盆を奉る事、日没後は拂去する事が常なる事である。
丁度五月に初めて行つたといわれています。

①「厄」とは

星の巡り合わせによって生じる悪事災難のこと

「本厄」と言って大きな厄が来る年があり、一般に男性は42歳、女性が33歳といわれますが、これは男性と女性の身体の変化が訪れるのがそれぐらいの歳なので特に気をつけてくださいと言うことです。

逃れることができない厄をどうすればよいのか

本厄ではない時でも9年内に三度、大なり小なり凶(厄)の年が訪れます。
星祭開運祈禱札を祀り、自身の厄を小さくしてください。



②「星祭」とは

宿曜經という密教占星術の教えを基にして、
9年ごとにめぐってくる本命星により、その年の吉凶が決まります。



③「御札」とは

自身に難が降りかかる前に替わりにそれを受け、
災厄を少しでも小さくしてくれる守り札

一般に厄年にあたる方はご祈祷を受けますが、厄年でなくとも厄を受けてしまうことがあります。それは近しい方の厄と一緒に受けてしまうからです。厄年でない方も開運厄除を祈願し、御札(星祭開運祈禱札)をお祀りください。

申込方法

振込 または 来寺 にて

※電話での申込みはお受け出来かねますのでご了承ください。
※現金の郵送はご遠慮ください。
※申込書の控えはお手元に大切に保管してください。

振込



来寺



① 申込書に記入

申込書・返信用封筒に
必要事項をご記入ください。

② 郵便局にて振込

振込用紙に必要事項をご記入いただき、
郵便局にてお振り込みください。

③ 発送手続き

申込書を返信用封筒に入れ、
発送手続きを行ってください。

① 申込書に記入

申込書に必要事項をご記入ください。

② 来寺

納経所(受付)にお越しください。
8:00~17:00

③ 申込手続き

申込書のご提出・お支払いを
行ってください。

締切

節分「厄除」祈祷会

振込 平成31年1月20日(日)

来寺 平成31年1月20日(日)

星祭「開運」祈禱札

振込 平成31年1月20日(日)

来寺 平成31年1月31日(木)

節分

豆をまいて厄を払う
「厄除」祈祷会
2月3日 日

時 間 10時～、13時～、18時～

場 所 西山本堂にて

祈祷料 5,000円 豆まき・福豆(マス付)

- 各回10分前より受付
- 受付順に各回20名ずつご祈祷いたします
- 時間中、まかれた豆を西山本堂内(外陣)にてお受けいただけます(無料)



星祭

1年間 家でお祀りし、
災いを引き受ける御札
「開運」祈祷札

御札は一札ずつ僧侶がお作りします

受渡し期間 **2月5日 火** から **3月5日 火**

場 所 納経所にて ● 9時～17時の間にお受け取りください

紙札

木札

約20cm



祈祷札
500円

約30.5cm



小木札
1,000円

約38.5cm



中木札
3,000円

約45.5cm



大木札
5,000円

特別木札

ご加護

- 1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
- 諸曜総咒
※3万円木札のみ
- 当年属星
(当年九曜星)

裏面

約54.5cm



約54.5cm



特別木札(1万円・3万円)には、
ご本人の当年属性(当年九曜星)を
記入いたします。

特別木札をお申し込みの方は、
西山本堂内に1年間お名前を
あげさせていただきます。

特別木札
10,000円

特別木札
30,000円

※御札の大小に関わらず、施主名が裏書きされます。※御札の寸法は目安です。

七難即滅 七福即生 なごや七福神めぐり

お正月といえば七福神めぐり!

大人気のおめでたい神さまたちをめぐって、新しい年にたくさんの福を呼び込みましょう!

なごや七福神をお祀りする七つのお寺は、どこも由緒あるすてきなお寺ばかり。七福神さまだけでなく、どんなお寺なのかきちんと知つておけば、お参りの時の喜びもどんどんふくらみますよ!

*行事や混雑時などのさい、手書き朱印や大色紙の対応をお受けしかねる場合がありますのでご了承ください。



中区 成田山 萬福院 まんぶくいん 〈真言宗智山派〉

萬福院は慶長年間 重秀法印により清須に開山し、名古屋城築城と共にこの地に移転。その後、大本山成田山より本尊不動明王を勧請し、名古屋の成田山不動尊靈場として参詣を集めています。特に節分会においてはこの地方で最も古くから行われ、多くの神社仏閣のお手本とされています。

〒460-0008
名古屋市中区栄5丁目26番24号

TEL 052-241-7670(代)午前9時~午後5時
<http://www.manpukuin.or.jp>

交通
●地下鉄名城線「矢場町駅」下車③番出口
●市バス「丸田町」下車



ふくろくじゅ 福禄寿

延寿福楽



福禄寿は南極老人星の化身です。中国、北宋の嘉祐年中に現れた道士で、身長短く頭長く美髪を蓄え、杖頭に経巻を結び常に白鶴を作っています。杖頭の経巻には人の寿命が記されています。

昭和区 八事山 興正寺 こうしょうじ 〈高野山真言宗〉

興正寺は貞享三年(1686年)、天瑞和尚高野山より来りて開創された古刹です。尾張徳川家二代藩主光友公の帰依により諸堂建立し、尾張高野と称されています。東海地方唯一の木造五重塔(国指定重要文化財)を始め、7つのお堂があり、毎月5日・13日の縁日と、21日のマルシェは参拝者で賑います。

〒466-0825
名古屋市昭和区八事本町78番地

TEL 052-832-2801(代)午前8時~午後5時
<http://www.koushoji.or.jp>

交通
●地下鉄鶴舞線「八事駅」下車①番出口
●市バス「八事」下車



じゅろうじん 寿老人



不老長寿

寿老人も南極老人星の化身で長寿の杖を持ち、玄鹿(くろしか)を作っています。玄鹿は1500才を経たる鹿で、人若しこの肉を食するとき、2000才の寿を受ける事が出来、延寿の神として祀られています。

中区 大須観音 宝生院 ほうしょういん 〈真言宗智山派〉

宝生院は真言宗智山派別格本山で「大須の観音様」として広く全国にその名が知られています。650年程前に能信上人によって開創され、本尊は弘法大師作の聖観世音菩薩です。毎年2月の節分には七福神を乗せた宝船が出て数十万人の人出で賑わいます。

〒460-0011
名古屋市中区大須2丁目21番47号

TEL 052-231-6525(代)午前9時~午後5時
<http://www.osu-kannon.jp>

交通
●地下鉄鶴舞線「大須観音駅」下車②番出口
●市バス「大須観音」「西大須」「大須」下車



はていそん 布袋尊



諸縁吉祥

布袋尊は自ら弥勒菩薩の化身として常に袋を負い、身につくもののことごとく此の内に収め、また、路に落ちたるもの、他人より買ひうけしものを皆、中に収め、喜びの相を示す故に、福神として人々より和合の神として祀られています。

新杜のコラム

入山六十年を迎える

新年、お目出とうございます。新しい年を迎えられ本年も皆様にとりまして、益々良き年でありますように祈り申上げます。

当山興正寺も、昨年開山三百回忌御遠忌を終えました。御承知のように、いろいろと問題があり、御信徒の皆様には、大変な御迷惑をおかけ致しましたが、平稳な年を迎えるました。

振りみますと、年月が過ぎるのは早いもので、入山させていただき、はや六十年もの年月が流れました。

昭和三十四年、丁度、伊勢湾台風の年、東海地方では何万人もの被害があり悲惨な年でした。

その年四月に母を五十才にして亡くし、十二月には父親を六十才にして亡くしました。台風と両親の葬儀と、悲惨な年でした。子供心に何故人は死ぬのか、いつまでも両親と言う者は永久的に生き、子供を育ててもらえた者だと思っていました。やはり、親子とは、永久的に一緒に居られる訳ではない、必ず別れなければならないものだと通感致しました。

(愛別離苦)

このままでは、自坊の小寺も廢寺しなければならない。自分自身がこの寺を繼がなければと決意し、御縁を頂き興正寺第十八世慧航恵海大和尚に入山得度、出家致しました。初めて興正寺に入山し、境内の広い事、又、台風の爪跡とあつて五重塔の九輪は折れ、多くの杉の木、大木が折れたり荒れ果てていました。毎日が大木の後片付け

と焼き木作りでした。

そんな中で、ある日、能満堂の横の大杉をネズミのような小動物が、木の上まで走り登つていくのを見つけました。

それはネズミではなく、リスでした。又、大日堂へ行く雜木地では、早朝より小学生の子供達が、カブト虫とか、クワガタ虫を取りに来ました。そんな自然豊かな環境でした。又、毎月五日と十三日の縁日には境内に露店が百店舗以上が並び、境内の土が見えない程の参詣人でした。又、当山の最大行事、中秋の名月、千燈会には、二・三日前より多くの世人の方々が準備と弁當作りに大変でした。

当日は何萬人の参詣者が観光バス、市電等、団体参詣の方々で大変な賑わいでした。夜も一晩中、お籠りされる方が多く、私達の寝る所も無く風雨場の脱衣所で寝た事がある時代でした。

時代は変わりましても、本尊様・大日如来・阿弥陀様の御尊顔は、変わることなく穏やかな御顔をしてみえます。仏様の顔は、いつの時代でも変化はないのですが、やはり、私達の御参りする気持ちによって、御顔も変化されるのではないかと思ひます。仏様は常に笑顔で、鋭い仏眼にて全てを見透かしてみえます。私達は良い事も悪い事も、全て仏陀は、何もかもお見とおしです。

今後も時代が、どのように変化しても、本尊様・諸仏・諸菩薩は、永遠的に私達を見守つていて下さることと確信致します。

(長老 杉浦)

(合掌)



興正寺の境内を歩きながら、八事山女房を持って、興正寺を歩いてみませんか？いつもと違った発見があるかもしれません！

興正寺さんぽ⑩ 今日は誰に会えるかな…？

墓地参道を抜けると大日広場です。長い歴史を伝える石仏と石碑がすらりと並んでいます。ひとつ高いところに尾張徳川2代光友公がご自身のお母様の供養と尾張の安寧のために建立された大日堂(⑮)があります。この大日堂と広場には、たくさんの方々が訪れます。興正寺七不思議と言われる墓石や仏様、名古屋城との秘密の抜け道、果ては尾張家にまつわる埋蔵金…珍しい樹木や桜の小径、尾張の文化人の石碑など見所、参拝所がいっぱいの広場です。けれどもここで終わりではありません。広場を突っ切って、森の参道を渡るとすぐ弘法堂(⑯)が見えてきます。お大師様と開山様に手を合わせたら、そこから森をくぐるように奥へ進みましょう。「奥の院不動護摩堂と東山本堂(⑰)」が小さな茶室「松林庵」をはさんで静謐な空気で包まれています。ここがかつての興正寺の中心であり、一番古くて大切な場所です。ここからは興正寺公園と呼ばれる森が続いています。時間をたっぷりとて、歴史と自然がてんこ盛りの森を散策しながら歩いていると、いつの間にか出発地点に帰ってきます。

懐かしいご先祖様に会いに、仏様とご縁を結びに、自然を楽しみに、古い文化と歴史を尋ねに…。興正寺は様々な出会いのある寺です。さあ、今日もあなたの興正寺に出会うため、「興正寺さんぽ」にお出かけください。(井上)



興正寺など身近な場所からも
防火・防災知識を発信し、
地域の意識向上を目指したい。

名古屋市消防局 昭和消防署 予防課 予防係

たまより
消防士長 玉寄 ゆうきさん

消防官だったお兄さんの影響で、2010年に消防官に。千種消防署に赴任後、2014年に昭和消防署へ、主に現場での消火活動などに従事し、2018年10月から予防課に配属され、現場での経験・知識を活かしながら、防火・防災を中心とした対策活動を行っている。

消防官だったお兄さんの影響で、2010年に消防官に。千種消防署に赴任後、2014年に昭和消防署へ、主に現場での消火活動などに従事し、2018年10月から予防課に配属され、現場での経験・知識を活かしながら、防火・防災を中心とした対策活動を行っている。



人と街とお寺をつなぐ場所 八事山文庫 地域版

毎年1月26日は【文化財防火デー】である。興正寺の五重塔も国の重要文化財であるため、【文化財防火デー】には、境内で防火訓練を行っている。今回は、興正寺の防火・防災指導を行っている昭和消防署に勤める玉寄さんにお話を伺った。



興正寺の五重塔が国の重要文化財指定を受けた1982年から、昭和消防署が防火・防災の指導・訓練を担当している。それ以外にも、千燈祭の大護摩の飛び火警戒、興正寺でのイベントには、消防服を着る体験ブースを出し、防火・防災の呼びかけを行うことも。「昭和消防署に赴任し、消防官として興正寺の文化財防火訓練に参加しました。重要文化財の防火訓練に参加したのはその時が初めてで、興正寺を訪れたのも初めて。興正寺の規模の大きさに驚きました。そして、赴任前は住宅の防火・防災を主に意識していましたが、玉寄さん。「年1回の文化財防火デーでは、僧侶や職員の方に消防隊の訓練を見てもらい、防火意識を高めていただけています。」という玉寄さんの言葉通り、毎年この指導があるおかげで、興正寺ではこれまで一度も火災が発生していない。しかし、今年は興正寺のある昭和区エリアでは、火災件数が増え

ているそうだ。玉寄さんに聞くと「火災原因の多くは、タバコと放火です。タバコは確実に火が消えたことです。自宅周りに置いてあるゴミに絶対にやめましょう。また、放火は、自宅周りに置いてあるゴミに火を付けられることが多いので、燃えやすい物を家の周りに置かないこと」「ゴミの日の前夜などにゴミを出すことを控え、当日の朝に出すようにしましょう。」とのことだ。

昭和消防署としても定期的に防火広報しながら街を廻ったり、高齢者世帯を訪問し防火指導をしているが、火災が頻発する時は、臨時に防火広報を増やしたり、チラシを配布し街全体の防火意識の向上を促している。

「私たちも、防災についても力を入れています。防災には、公助(行政による救助や支援)・共助(家族や企業・近所などのコミュニティでの助け合い)・自助(自分で自分を助ける)の3つがあるわけですが、中でも特に自助力を高めることで、いざ災害に遭った時、公助や共助を延々と待つことなく自分で対処できるようになります。そのための講習などを積極的に行っていきます。」と、玉寄さん。「ひとり暮らしのお年寄りも多いため、身近で訪れやすい興正寺という場所で、気軽に防火・防災知識が学べる場を開くことができたらいいなと思います。」と語ってくれた。地域の防火・防災意識の向上を興正寺でも支えていくよう、ぜひ協力



地下鉄鶴舞線駅から徒歩すぐのところにある昭和消防署。



日々の訓練や点検を怠らず、いつでも出動できるよう万全に。



文化財防火デーに行った、興正寺境内での放水訓練の様子。

お坊さんダイレクト・出版版

仏事のお
話
み
相
談
室

A 初詣は神社に行くべきですか?
お寺でもいいのですか?

Q 仏事の疑問に僧侶がポンネで答える
「お坊さんダイレクト」の出版版!
皆様のひと音お悩み相談に、僧侶、
柳田英伸さんがお答えいたします。



お気軽に「仏事のひと音相談」をお寄せください。
僧侶がお答えいたします。
お葉書に必要事項を記入の上、左記宛先までお送りください。

【必要事項(お葉書の印字へくわび)】

・ひと音の相談(40文字まで)
・お名前
・年齢
・性別
・ご住所
・お電話番号
(ひと音相談以外は掲載いたしません)

【お葉書の宛先】
〒466-10825
愛知県名古屋市昭和区八事本町7-8
八事山 興正寺 普照殿内
八事山文庫「仏事のお悩み相談室」係

今月の興正寺サン



南区在住
エマちゃんファミリー



瑞穂区在住
三枝さんファミリー

娘さんの七五三参りで、興正寺を訪れていたエマちゃんファミリー。興正寺を訪れたのは、これが初めてのこと。「七五三の衣装を頼んだところで、興正寺での七五

娘さんの七五三参りで、興正寺を訪れていたエマちゃんファミリー。興正寺を訪れたのは、これが初めてのこと。「七五三の衣装を頼んだところで、興正寺での七五

娘さんは、自由に彼女らしい成長してくれれば、とご両親の娘さんの将来に対する願いも話してくれた。

良くな写ってくれたエマちゃんファミリー。興正寺を訪れたのは、これが初めてのこと。「七五三の衣装を頼んだところで、興正寺での七五

娘さんは、自由に彼女らしい成長してくれれば、とご両親の娘さんの将来に対する願いも話してくれた。



一心におかりされる参拝者の皆様

一編集後記

大晦日の年越しの予定はお決まりですか?クリスマス、大掃除、年越し、年初め、と、何かと多用になる時期ですが、その分、小さな達成感をたくさん感じられる時期です。皆さん、たくさん幸せが舞い込みますように。

月のみよみ
親族一同集つて宴をする「睦月」ともいわれる。

月六日 小寒
この日は寒の入り、これから節分まで期間が「寒」。寒さはこれからが本番。

月二十日 大寒
一年で一番寒さの厳しい頃。逆の見方をすれば、これからは暖かくなると言ふことである。春はもう目前である。

1月

八事今昔物語り うそこにお寺のある暮らしう

17

そろそろ来年の暦が出回ってきました。平成31年は元号も変わる予定のため、なかなか曆作りが難しいと聞いています。どんな年になるのでしょうかね。平成31年は、己亥です。未来を知るには過去を調べる。これが大切。

十干「つちのと」と十二支「いのしし」

が組み合わさるのは60年に一度。前回

は昭和34年(1959年)でした。この

年、皇太子と美智子様のご

結婚という大きな出来事がありまし

た。そういえば平成31年も、そして名

古屋の人々にとって忘れられない大災

害「伊勢湾台風」がこの年でした。己

亥が重なる年は、前年の「よいもの」が

続きますが、いきなり大事件が起る

年でもあるとか(なんせイノシシです

から)。己の字は「ほんがらかる系」を整理

している様子。亥の字は地面の下に

ある種を表します。つまりは大きな

力(政治?組織の力?自然の規律で

しようか?)がどかんと個人の上

に鎮座する年。ある意味、組織力が問

われ、同時に、一人ひとりの力が發揮

される年でもあります。災害に対応する

のは個人の小さな力の積み重ねと、それ

を束ねる組織の力です。個人の才能を

大きく伸ばして外へ飛躍させる年です

から、もしかしたら奇跡の大発明や大発見が個人の手で成されるかもしれません。占いなど信じませんか?もちろん、噂で人々社会を踊らせる占いは、社会悪です。けれども暦という宝は生かしたいもの。お寺とは歴史から学んで未来に生かす力を折る場所なのです。興正寺は、過去を大切に見つめながら、命の種を内に秘めて芽芽を育っています。

過去のけじめをつけ、変革と、飛躍と、安定の年への祈りを込めて、さあ、皆さんと一緒に猪のごとく、明日へ待っています。

過去のけじめをつけ、変革と、飛躍と、安定の年への祈りを込めて、さあ、皆さんと一緒に猪のごとく、明日へ待っています。

また、特別祈禱をお申込みされた方には、ご本尊と當山の寺宝である「弘法大師伝五砧杵を第之御に繋ぎ、阿弥陀仏」で刷った義符(お守り)を直接お体をお加持し、當山第五世諸忍大和尚直筆の梵字版本「南無阿彌陀佛」で刷った義符(お守り)を授与致しました。

そして最後に、私が落語の「宗論」を披露しました。拙い落語でしたが情様が温かく聞いて下さり感謝申し上げます。

毎月15日に通常の縁日を勤めておりますので、一人でも多くの方がご参拝いただき阿弥陀様との仏縁を結ばれる「お待ちいたしております。

そこで最後に、私が落語の「宗論」を披露しました。拙い落語でしたが情様が温かく聞いて下さり感謝申し上げます。

毎月15日に通常の縁日を勤めておりますので、一人でも多くの方がご参拝いただき阿弥陀様との仏縁を結ばれる「お待ちいたしております。

そこで最後に、私が落語の「宗論」を披露しました。拙い落語でしたが情様が温かく聞いて下さり感謝申し上げます。

奥之院東山本堂大祭

興正寺のまなびの講座紹介

去る11月15日(木)、奥之院東山本堂にて大祭縁日のお勤めを行いました。

本年はお天氣にも恵まれ多くの方がご参拝されました。

通常の縁日では私一人でのお勤めですが、大祭では僧侶三人と普段とは違った雰囲気の中でのお勤めでした。

通例の縁日では私一人でのお勤めですが、大祭では僧侶三人と普段とは違った雰囲気の中でのお勤めでした。

通例の縁日では私一人でのお勤めですが、大祭では僧侶三人と普段とは違った雰

興正寺行事カレンダー

1月

普門圓拝観(竹翠亭利用)時間 10:00~16:00
休園日(休業日)/7日(月)・12日(土)・13日(日)・24日(木)

月	火	水	木	金	土	日
31 大安	1 赤口 戌の日 元日 ○新年初護摩祈禱会(於 西山本堂) 0:00 10:00 11:00 13:00 14:00 15:00 ○合同供養会(於 圓照堂) 11:30 13:30	2 先勝 ○新年初護摩祈禱会(於 西山本堂) 10:00 11:00 13:00 14:00 15:00	3 友引 ○遊翠の心きもの装い 初級 10:00 応用 13:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円	4 先負 ○大日如来縁日 理題分経祈禱 12:30 大日堂 △遊翠の心 写経 10:00 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山海良 ★八琴庵定休日 大日如來	5 仏滅 ○大隨求明王 緑日 露店アリ 10:00 千支成満巡り ○大般若經転読祈禱会 10:30 大隨求明王	6 赤口 小寒 ○虚空藏菩薩 緑日 露店アリ 10:00 法話会 10:00 千支成満巡り ○成道会 14:00 本堂 虚空藏菩薩
7 先勝	8 友引 ○大日如来縁日 理題分経祈禱 12:30 大日堂 △遊翠の心 写経 10:00 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山海良 ★八琴庵定休日 大日如來	9 先負 △遊翠の心きもの装い 初級 10:00 応用 13:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円	10 仏滅 △阿息觀 14:00 普照殿 杉浦宣秀	11 大安	12 赤口 △初釜 10:30 12:00 竹翠亭 要予約	13 先勝 戌の日 ○虚空藏菩薩 緑日 露店アリ 10:00 法話会 10:00 千支成満巡り ○成道会 14:00 本堂 虚空藏菩薩
14 友引 成人の日	15 先負 ○東山奥之院縁日 13:00 奥之院 善之綱おくり ★八琴庵定休日 阿弥陀如來	16 仏滅	17 大安 △遊翠の心 茶の古典を読む 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 樹田英伸	18 赤口 ○觀世音菩薩縁日 13:00 觀音堂 護摩祈禱/法話 觀世音菩薩	19 先勝 △御詠歌入門講座 14:00 光明殿小ホール 鈴村智弘	20 友引 大寒 △阿息觀 14:00 普照殿 杉浦宣秀
21 先負 ○弘法大師縁日 10:30 弘法堂 初弘法 授戒 ○月並御影供 14:00 西山本堂 ★興正寺マルシェ 10:00~15:00 ☆マルシェ茶席 10:30~13:00 竹翠亭 拝観料500円 ☆マルシェ写経・写仏 初めて講座 光明殿 11:00~11:30 法話 13:00~14:00 ☆TERA-YOGA レギュラーヨガ 10:00~11:30 マタニティヨガ 13:00~14:10 支具料 2,000円 西口のぞみ 弘法大師	22 仏滅 △遊翠の心 阿息觀 10:00 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山海良 ★八琴庵定休日 興正寺マルシェ	23 大安	24 赤口 ○地蔵菩薩縁日 13:00 能満堂 大数珠おくり/紙芝居 △仏典読解講座 10:00 普照殿 樹田英伸	25 先勝 戌の日 ○安産合同祈禱会 14:00 本堂 ☆文化財防火デー 10:00 五重塔前 △遊翠の心きもの装い 応用 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円 △遊翠の心 水墨画 14:00 竹翠亭 要予約 地蔵菩薩	26 友引	27 先負 文化財 防火デー 1.25 育てよう 歴史を守る 防火の心
28 仏滅 ○不動明王縁日 14:00 不動護摩堂 護摩祈禱/法話 △遊翠の心 日々折々の書 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円 不動明王	29 大安 ★八琴庵定休日	30 赤口 △阿息觀 14:00 普照殿 杉浦宣秀	31 先勝 △佛教入門講座 14:00 普照殿 森田泰温			平成31年1月25日(金)午前10時~ 興正寺 防火訓練 場所 五重塔前にて ぜひ見学にお越しください! 【内容】消防・初期消火訓練／消防車両・消防機器・消防車との等身撮影など

*阿字觀(杉浦宣弘師)／御詠歌上級講座(鈴村隆弘師)／御詠歌初級講座(鈴村智弘師)の開講日程については、担当僧侶に直接お問い合わせください。(電話問い合わせ不可)